

議会だより

第12号

<http://www.town.fujikawa.yamanashi.jp>



見上げれば春
町の花桜満開!
(殿原スポーツ公園)

富士川町議会

検索

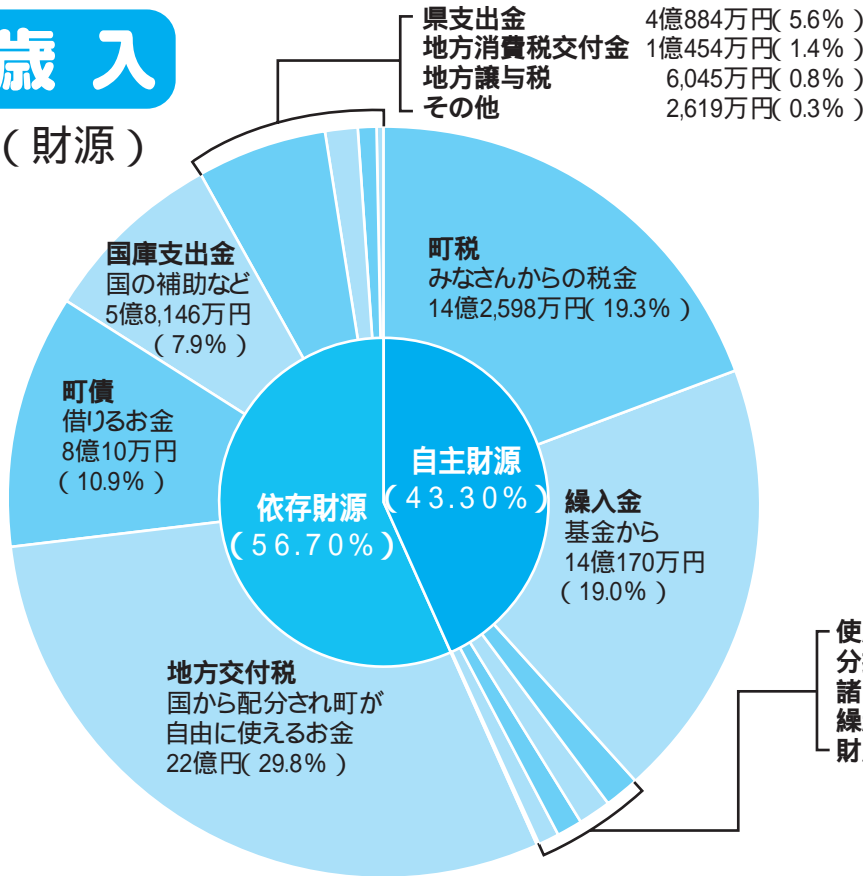
■ 3月定例会で決まったこと	2
■ 委員会レポート	4
■ 二病院統合基本計画骨子案かたまる	9
■ 一般質問(9議員が登壇)	11
■ ふじかわ昔ばなし	20

73億7762万円

行財政改革・事務事業の整理合理化 事務事業評価で精査し予算編成

歳入

(財源)



平成25年3月定例会が3月8日から26日までの会期で開催されました。前年度と同様に予算特別委員会を設置し、条例改正や補正予算など町から提出された60の議案を審査し、すべて原案のとおり可決しました。

使用料・手数料 1億773万円(1.5%)
 分担金・負担金 1億210万円(1.4%)
 諸収入 8,171万円(1.1%)
 繰越金 6,502万円(0.9%)
 財産収入ほか 1,180万円(0.1%)

その他 5億8,280万円(7.9%)
 【36,425円】

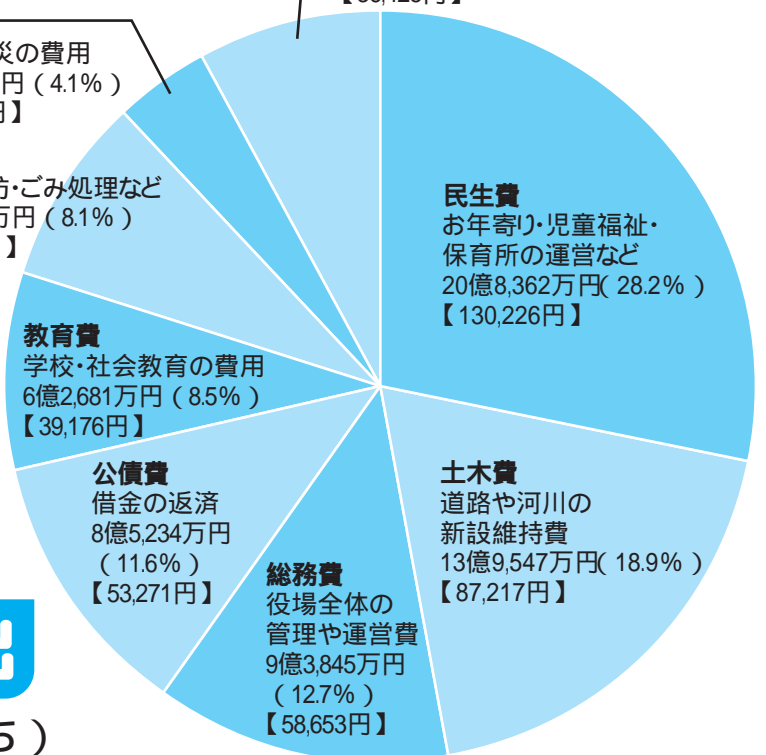
【 】内の数字は全人口1万6千人で割った町民1人当たりのお金です。



穂積柚太郎と柚香ちゃん
(穂積地区のキャラクター)

歳出

(使いみち)



新年度の注目事業

総務常任委員会

- ・通学路路肩カラー化工事延長
- ・地域力創造交付金制度の創設
- ・十谷地区ヘリポート用地購入



カラー化した通学路(天神中条地区)

教育厚生常任委員会

- ・中学3年生までの子ども医療費、ひとり親家庭の医療費助成の継続
- ・新病院設置協議会補助金
- ・鯉沢中学校太陽光発電設備設計費
- ・鯉沢小中学校のプール建設の用地購入費、設計費
- ・住基カード発行無料化(平成26年3月末まで延長)



鯉沢小中学校プールの建設予定地



大法師から殿原へ(桜回廊)

産業建設常任委員会

- ・桜回廊植栽工事費
- ・新規就農総合支援事業(特別会計予算)
- ・塩の華、つくたべかんは平成25年7月より町と民間が出資した株式会社で運営(道の駅「富士川」は平成26年7月オープン予定)



塩の華



つくたべかん



道の駅「富士川」の完成イメージ

平成25年度特別会計予算

・国民健康保険	17億5,749万円	・箱原農業集落排水事業	1,381万円
・後期高齢者医療	3億4,663万円	・鹿島財産区	5万円
・介護保険	17億3,830万円	・カラマツオ外三十山恩賜林保護財産区	49万円
・介護サービス事業	1億117万円	・活性化事業	2億800万円
・奨学金	72万円	・峡南地区ことばの教室共同設置	171万円
・簡易水道事業	1億4,756万円	・峡南地区充指導主事共同設置	89万円
・下水道事業	8億3,964万円	・水道事業会計	3億3,524万円
・営農飲雑用水事業	395万円		

委員会レポート

予算特別委員会

平成25年度予算のまとめ

- ・土地の借地料は、借地と買い取りではどちらが有利か検討されたい。
- ・町立小学校の適正規模配置について、なるべく早い時期に方針を示してほしい。
- ・水道管(石綿管)の取り替えを二日も早く完了されたい。
- ・公園、保育所の遊具の点検について、さらなる安全を図るためにも国の基準を考慮されたい。

総務分科会 (総務常任委員会)

問 町税予算計上が、前年度と比べすべての税目予算が増えているが、

答 当初予算の段階では、収入見込み90%程度の予算計上だったが、25年度は決算ベースに近づけて計上した。

問 固定資産税の収入が増えているが、

答 例年50軒程度の新築家屋があるが、今年は90軒余りで、天神中条、長沢地区が増加している。

問 町有地貸付の白子地区ローソンの貸地料は、

答 月額55万円を予定している。



ローソン建設予定地(白子地区)

問 移住交流による地域活性化事業の内容は、

答 空き家バンクや古民家体験、ホームページの立ち上げなどの新規事業。

教育厚生分科会 (教育厚生常任委員会)

問 放課後児童クラブの対象年齢と児童数は、

答 小学校1年生から6年生を対象。現在定員は各70人、まずは北児童クラブ70人、まずは南児童クラブ51人、さくらななよしクラブは45人応募。低学年を優先で定員になり次第締め切る。

問 児童福祉総務費の繰出金378万6千円は、

答 子ども医療費・ひとり親家庭医療費の窓口無料化に伴う、国民健康保険の国のペナルティー分。

問 中部小の児童数は、

答 25年度は3年生1人、6年生4人の計5人のスタートとなる。

問 通学路路肩カラー化の予定箇所は、

答 天神中条長沢1号線、上北富士見町線、旭町2号線を予定している。



まずは南児童クラブ

問 増穂西小の児童数は、

答 25年度は1年生1人、4年生2人、5年生2人、6年生2人の計7人で、男子だけのスタートとなる。

問 かじかの湯温泉ポンプ交換工事130万円は。
答 23年度に大規模改修をしたが、源泉を汲み上げるポンプが2基あり、交互にポンプ交換とオーバーホールを行っている。今回は1基ポンプ交換を予定。かじかの湯とまほらの湯は、町との協定で20万円以上は町で負担することになっている。

問 鵜沢小中学校プール土地購入費6,659万円とあるが工事費の概要は。
答 25メートルプール、ベビープール、管理棟など概算で1億5千万円を見込んでいる。26年夏には完成予定。

問 小中学校の太陽光発電設備の設置予定は。
答 25年度は増小1号棟と増中、26年度は増小2号棟と鵜中、それ以降は鵜小と増穂南小を予定。

産業建設分科会（産業建設常任委員会）

問 新規就農総合支援事業とは。
答 45歳未満の新規就農者に一定期間給付金を支給。25年度は2人を予定。

問 営農飲雑用水事業を簡易水道事業への統一は。
答 設置時の制度、管轄省庁が違うので統一できない。

問 一般管理費に駅長1人の人件費が計上されているが。
答 法人設立までの人件費で、設立後は会社負担となる。

問 農地集積協力事業とは。
答 耕作放棄地の解消を目的に、農地集積に協力する農地の所有者が交付対象。

問 橋梁長寿命化実施計画策定業務の詳細は。
答 151橋の点検結果により策定された基本計画を基に、修繕橋梁の優先順位付けを行う。



災害に備えて橋梁点検を

問 朝市建屋備品購入費の詳細は。
答 建屋はローソンの寄贈、海産物や農産物を販売予定のため冷蔵庫を購入。

問 町営住宅、町有住宅の入居状況は。
答 町営住宅は360戸中315世帯、町有住宅は160戸中77世帯が入居。

問 石綿管布設替工事で残っている箇所は。
答 残り約500mで25年度は170m実施予定。

問 塩の華、つくたべかんの赤字改善策は。
答 勤務時間の見直し、作業分担効率化、商品の開発など。

問 下水道の整備状況は。
答 整備率73・5%。

峡南北部二病院統合事務組合の設置について賛成多数で可決！

富士川町および市川三郷町は、新たに設置する病院の開設に関する事務を共同処理するため、一部事務組合を設置することについて採決し可決した。
 （25年4月施行）

賛成者 11人

反対者 4人

- | | | |
|--------|--------|--------|
| ・齊藤 正行 | ・市川 淳子 | ・鮫田 洋平 |
| ・井上 光三 | ・永井 寛子 | ・長澤 健 |
| ・堀之内美彦 | ・神田 智 | ・秋山 貢 |
| ・深澤 勝雄 | ・望月 邦彦 | ・齊藤 欽也 |
| ・井上 勝 | ・小林 進 | |
| ・保坂 實 | | |

議員定数削減条例制定 否決

議員発議により議員定数を16名から14名に削減する条例制定議案が提出された。採決は賛成5人、反対9人で否決した。

提出者 秋山 貢
賛同者 鮫田 洋平 長澤 健

「提案理由」

昭和22年に地方自治法を制定した時には、地方議員はほかに職業を持ち、非常勤の特別職と位置づけられました。

現在では、県や市の議員は常勤化しています。さらには地域主権改革が推進され、自己責任・自己決定の特色ある町づくりの施策が住民からは望まれています。これら議会に対する住民の要望に応えるには、専門化した議員でなければ十分な活動はできない時代になってきました。

また、従来の地区代表的性格から脱却し、より広い視点で、町全体の課題を討議する議会になることが望まれています。

議員定数については、議会制民主主義の根幹として議会改革特別委員会において何度も議論を重ねてきました。議員定数を削減することにより、議員相互の意識が高まり、ひいては資質向上につながると考えます。これが、この条例案を提出する理由である。

討論

反対

齊藤 正行

合併から3年が経過し、議員定数削減とのことだが、合併時旧増穂町が14人、旧鵜沢町が10人の合計24人、法定数は22人以内と定められているが、合併当時人口1,000人に1人で定数を16人に削減し、ここまでできている。

提案理由に、従来の地区代表的性格から脱却し、より広い視点で町全体の課題を討議する議会があるとあるが、いま町民から定数を削減と言つ声を私は聞いていない。

富士川町民が議員になるわけだから、地区から推薦されることこそ当然のことで、地区の事だけしている議員などどこにもいない。また、専門化した議員でなければ十分な活動はできないとあるが、2人削減したらどうして専門化になれるのか、全く意味がわからない。

来る選挙で議員定数を削減

し、議員報酬を上げますと公約し、選挙に立候補し、当選した時に議論をすることこそ、本来の姿ではないか。

堀之内美彦

議会改革は、全議員の合議を持つて推進すべきものと考えられる。議会と町長が緊張感を保ち、それぞれの立場で町の現在・未来に責任をもつ政治を行うことが町民に求められている。

地方分権改革の推進は、地方に責任と裁量権を求めめるものであり、議員の削減のみでは住民の負託に応えられない。提案理由の中には2名削減する具体的根拠が示されていない。また、「専門化した議員でなければ十分な活動ができない時代」とあるが、これは現在の報酬を上げることが意味していると解釈すべきであり、今後、議員間の協議を十分に行い、議論を深め全会一致で議員発議により、議員定数および報酬なども討論や質疑を尽くし、推し進めていくことが大事と考える。

永井 寛子

この定数削減の条例案は、「経費の節減」が目的ではないと提案者は答弁している。では何のためか。「議員相互の意識の高まり」「資質の向上」が提案理由では、条例化の根拠とはいえない。

地方分権化が進み、議会の役割はますます大きくなっていく。議会は住民を代表してその意思を反映し、行政への監視能力をさらに高めねばならない時を迎えている。しかし近年、全国的に定数削減の流れが止まらない中、これが地方議会の機能を低下させ、議会の存在そのものの軽視につながることを私は危惧する。定数削減の背景には、住民の議会への不信感もあるといわれている。これも、議員数を減らせば解決できる問題ではなく、議会が自ら改革をしていく中でしか住民の信頼を回復することはできない。真の地方分権を実現する確固たる議会を確立するためにも、定数を削減するための条例案には反対である。

賛成

鮫田洋平

2000年に地方分権一括法が施行され、地方議会の役割の重要性が高まり議会は町の施策の策定、決定する議事機関、執行部の監視機能を強化しなければならない。

二元代表制の執行部と議会とが機能を発揮することが大切であり、議員が自主的かつ能動的に活動できる環境をさらに整えることが必要である。議会改革は喫緊の課題であり、徹底した熟議を透明性をもって行い、議案の審議と調査能力を向上させ、幅広い層からの人材を確保するため、財政的なビルドアップが必要である。

しかし、町の財政は今後さらに逼迫し、議会費増大は町民の理解を得ることは難しいならば、議会自らが身を切る覚悟で議員定数削減を示し、自らが変革するという強い意思表示をすることが重要である。今後の人口の推移予測を勘案しても、議員定数削減案

は時代のすう勢で、提出された議案は的を得ているものと考ええる。

長澤 健

山梨県内の議員構成は176人の議員中、30代1人、40代2人と全体の1・7%と偏っている。

原因の一つは全国で最低レベルの報酬だと思う。

子育て中の生活がかかっている若い人は議員になりづらいのが現状で、多くが年金暮らしの議員である。

将来を見据える事のできる若い議員が出てくるためにも、少しでも報酬を上げる事を望む。その手法として2人削減して、その分を報酬に充てる。また、扶養手当・子育て手当

など、若い議員に出やすい環境づくりも必要と考える。

市川 淳子

合併してから3年間、議員という立場で議会の中身を見てきた。議員にどのくらいの仕事量があるのか、議会の中に入ってみないと実際のところは分からない。一般の町民に全てを知ってもらう事も難しい。

私は教育厚生常任委員会に所属し活動をしてきたが、今のこの状況の中で富士川町議会の議員を2人減らしても、十分やっていくことは可能であり、支障がないと考える。よって、議員定数を14人にすることに賛成する。

採決

賛成者 5人

- ・ 鮫田 洋平
- ・ 長澤 健
- ・ 秋山 貢
- ・ 市川 淳子
- ・ 齊藤 欽也

反対者 9人

- ・ 齊藤 正行
- ・ 永井 寛子
- ・ 堀之内美彦
- ・ 望月 邦彦
- ・ 保坂 實
- ・ 井上 光三
- ・ 神田 智
- ・ 深澤 勝雄
- ・ 小林 進

欠席者 1人

- ・ 井上 勝

条例

今定例会で可決した制定案(6件)、一部改正案(13件)、廃止案(5件)のおもなものは次のとおり。

制定

- ・ 地域コミュニティ施設整備費貸付基金条例の制定
- ・ 基金総額は1億円で無利子、例えば、公民館を建て替える際は、自己資金と区民1人1万円の補助とこの基金貸付が受けられる。区が償還計画書を提出し、町の貸付審査委員会で決定する。
- ・ 敬老祝金条例の一部改正
- ・ 満80歳以上を満88歳および満101歳以上に改め、満88歳は5,000円、満101歳以上は10,000円に改正。また満百歳のお祝い金は、20万円を10万円に改正する。
- ・ 行政組織条例の一部改正
- ・ 防災課を設置して、消防・防災・防犯・国民(町民)保護対策および交通安全に関することを分掌する。

一部改正

- ・ 地域福祉基金条例の一部改正
- ・ 基金の額2億6,926万円を2億円に改正。端数を地域コミュニティ施設整備費貸付基金の原資とする。
- ・ 公の施設における指定管理者の指定の手続き等に関する条例の一部改正
- ・ 公募によらない、指定管理候補者選定の規定を明確にしたもの。

廃止

社会情勢の変化を踏まえ、基金原資の有効活用を図るため、町営バス基金条例など5条例を廃止。

24年度
補正

増穂小・中学校に

太陽光発電設置

2億2,500万円増額 総額74億6,000万円

おもな補正

増穂小・中学校太陽光発電設備設置工事費	7,205万円
殿原公園駐車場整備工事費	2,700万円
不妊治療費助成事業補助金	40万円
観光交流センター建設工事費	1億5,500万円
大久保団地外壁改修工事費	1,575万円
第4保育所大規模改修工事費	1,266万円
児童手当支給費	1,757万円
農村振興総合整備事業分担金	2,500万円
道路ストック総点検業務委託費	1,000万円



殿原公園相撲場跡地を駐車場に



太陽光発電設置予定（増穂中）

おもな質疑

問 小中学校太陽光発電、国庫補助約6,000万円と残りは基本的に全部起債で賄うとなっているが。

答 国庫補助と義務教育施設の整備費の起債で充当する。

問 殿原公園駐車場整備工事費とあるが、何台くらい駐車できるか。

答 旧相撲場の跡地に新たに34台分の駐車スペースを工事予定。

人事

公平委員会委員

再任 長澤 良子（天神中条）

再任 依田 章（鰻 沢）

再任 依田 章（鰻 沢）

再任 芦澤 勲（最勝寺）

新任 神田 正治（春 米）

教育委員会委員

再任 深澤 健夫（青柳町）

議会広報モニター募集

町議会では、町内在住の20歳以上の方（町職員・町議会議員とその家族を除く）で、議会だよりの批評や提言、情報の提供をしていただけのモニターを次より募集します。

募集人員 10人以内

任期 1年間

募集期間 平成25年5月20日

お問い合わせ・応募先
議会事務局
☎0556(22)7211

二病院統合基本計画骨子案かたまる!!

4月に峡南北部二病院統合事務組合を設置

〈開院準備のための一部事務組合がスタート〉

基本計画骨子案

団体名は『**峡南医療センター**』

施設名は『**市川三郷病院**』

『**富士川病院**』に

経営形態

- ・開院時の経営形態は、地方公営企業法の全部適用。
- ・中長期的には、経営状況や地域医療の実態などを踏まえ、地方独立行政法人への移行なども検討。

名称

- ・団体名
『峡南医療センター』
- ・施設名
『市川三郷病院』
『富士川病院』

病院の経営方針

二病院がひとつとなり、医療機能の強化や経営改革を進め、地域の診療所や山梨大学などとの連携を図り、高齢者や子育て世代への対応といった地域の特性上期待される医療

人事管理計画

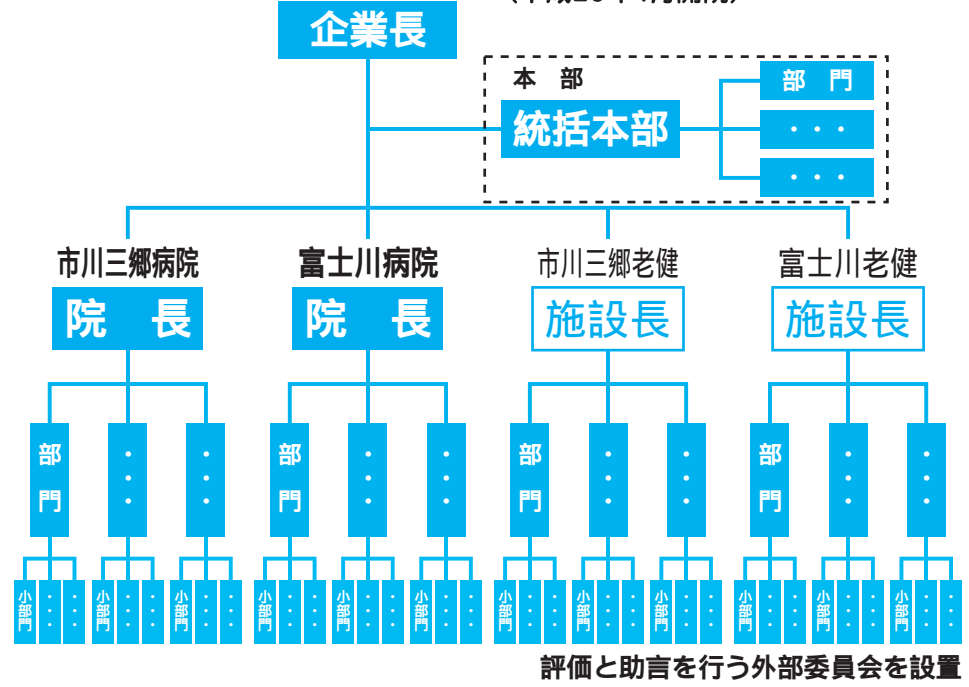
- ・サービスを、急性期から慢性期在宅医療支援に至るまで一貫して提供し、地域住民との結びつきがより強い病院となる。
- ・人事管理の方針
全職員に求める組織貢献
- ・病院の方針や目標を理解し、それに沿った行動を具現化する。
- ・本人の希望に沿った能力の向上を促し、自身の能力を組織に還元する。
- ・自身の能力を他の職員との連携に生かし、組織の一体感醸成に貢献する。

財務管理計画

- ・財務会計の方針
損益面の目標
- ・黒字が達成できる収益および費用の水準が確保できて

峡南医療センターの組織図 (イメージ)

(平成26年4月開院)



- ・いる。
- ・他の自治体開設病院と比べて遜色のない水準を確保できている。
- ・投資・資金面の目標
- ・設備投資の計画が策定されている。
- ・必要な投資に耐えうるだけ
- ・の資金が確保できている。
- ・短期的な支払をまかなえるだけの資金が確保できている。
- ・長期的には設立団体の支援を必要としない資金計画が策定されている。

各広域行政組合の予算を可決

峡南広域行政組合

平成25年度峡南広域行政組合負担金

	一般分等負担金	町村電算システム負担金	広域ネット運営費負担金
富士川町	3億4,015万円	2,467万円	717万円
市川三郷町	3億1,675万円	2,778万円	806万円
早川町	7,057万円	1,405万円	547万円
身延町	3億1,002万円	2,757万円	749万円
南部町	2億0,854万円	2,220万円	1,061万円
合計	12億4,603万円	1億1,627万円	3,880万円



峡南北部消防署

緊急通報システム負担金は、平成24年度をもって終了しました。



三郡衛生組合定例会

三郡衛生組合

平成25年度三郡衛生組合負担金

	一般会計	し尿処理場	火葬場	合計
富士川町	306万円	5,384万円	1,902万円	7,591万円
市川三郷町	276万円	4,173万円	1,723万円	6,172万円
南アルプス市	774万円	2億1,653万円	7,745万円	3億0,172万円
中央市	156万円	0	3,865万円	4,021万円
昭和町	117万円	0	2,535万円	2,652万円
合計	1,628万円	3億1,210万円	1億7,771万円	5億0,608万円

中巨摩地区広域事務組合

平成25年度中巨摩地区広域事務組合予算

年度	会計	一般会計	ごみ処理事業	地区公園事業	老人福祉事業	勤労青年センター事業	し尿処理事業	合計
本年度		3,559万円	20億8,682万円	859万円	3,346万円	5,028万円	2億4,042万円	24億5,517万円
前年度		3,929万円	12億3,298万円	859万円	3,183万円	4,918万円	2億4,805万円	16億0,992万円
比較		370万円	8億5,384万円	3万円	163万円	110万円	762万円	8億4,525万円
本町負担金		293万円	8,678万円	78万円	292万円	407万円	0	9,748万円

富士川町負担金は昨年度の1億4,743万円から9,748万円と33.9%の大幅な減額となった。

理由は、平成14年度の中巨摩広域事務組合に加入時に施工した焼却施設改良工事にかかる地方債が、平成24年度を持って償還が完了したためである。しかし、平成25年度から新たに焼却施設の改良整備事業が行われることとなり、来年度以降負担金増が予想される。

後期高齢者医療 広域連合議会

平成25年第1回定例会が2月19日に開催され以下の通り可決した。

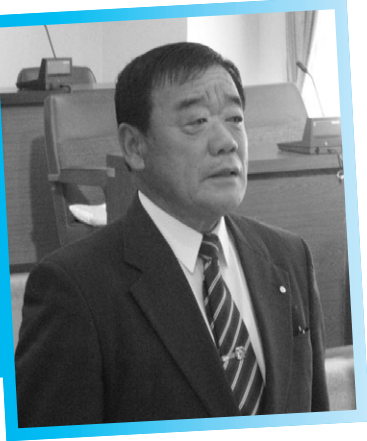
・条例の一部改正2件
・24年度一般会計補正予算
歳入・歳出を1、347万円減額し、5億8、871万9千円とする。

・24年度特別会計補正予算
歳入・歳出を6億1、504万9千円増額し、939億6、543万9千円とする。

・25年度一般会計予算
歳入・歳出は4億6、515万4千円と定める。
・25年度特別会計予算
歳入・歳出は935億9、400万6千円と定める。

町政を問う 一般質問

深澤勝雄 議員



問 中学生による模擬議会開催を提案する

答 町議会と相談し実施していく

問 将来展望に立った教育の一環として、中学生による子ども議会を提案する。子どもたちの自然な表現・ユニークな発想は、町政発展への参考として生かされる点多々ある。議場に臨むことで、経験を積み思い出として残り、教育効果も大きい。子ども議会開催に対する町長の考えを伺う。

町長 町の将来を担う子どもたちが、夢や要望を提言することは町への関心を高め身近に感じ、まちづくりに積極的に参加しようとする意欲を高めるよい機会と考える。

昨年12月から町長と小学生の語る会を開催してきた。町長に対する私的なことや仕事についての質問・施策についての要望・提案が出された。今後も、児童・生徒を問わず、意見・提言をいただく場を設けていきたい。中学生の模擬議会開催については、町議会とも相談する中で実施していく。

AED(自動体外式除細動器)の普及・啓発は

問 小・中学生を対象とした救急救命教室を開催している自治体もある。地域防災力の観点からも、命を守る教育事業を本町小・中学校でも取り入れるべきと考えるが、教育長の考えを伺う。

教育長 救急救命を学ぶことは命の大切さを学ぶ良い機会と思っている。学校では教職員や保護者向けの講習会を開催した。畷沢中では来年度より心肺蘇生法とあわせて、AEDについて



中学生の模擬議会を

仕組み・使い方などの講習を予定している。増穂中においても講習が開催できるよう指導していく。

問 町内の公共施設に設置しているAEDも閉館時には使用できない。24時間営業のコンビニと協定書を締結し、いつでも使用可能としている自治体もある。本町でもコンビニの協力を得て設置するべきと考えるが、当局の考えを伺う。

総務課長 設置する場合、自治体がAED設置費用を負担しており、一式当たり35万円程度の費用負担や、継続した保守管理が発生してくる。今後、全国的な需要の動向を見極めていく。

問 心停止者は、いつどこで発症するかわからない。早期の救命手当てを行うためにもAEDを町で保管し貸し出しができるように取り組むべきと考えるが、当局の考えを伺う。

総務課長 現在ある役場のAEDを貸し出していきなると考えている。

問 さらなる合併の考えは

答 当面棚上げし
公共施設整備を検討



齊藤 正行 議員

問 選挙公約としてさらなる合併を掲げていたが、方向転換し、今まで触れてこなかった部分の施策に取り組みべきと考えるが。

町長 峡南北部の地域医療の確保や、教育環境の整備中部横断自動車道やリニアを活用した地域振興策などの広域的課題に取り組んできた。合併特例法の廃止や合併支援策もなく、財政的メリットがないことから当面棚上げし、公共施設の建て替えや耐震化などの整備に向けて検討したい。

問 公約の中に空店舗を活

用したにぎわいのまちづくりを推進するとあるが、何か計画はあるか。

町長 青柳町東部地域には、インターチェンジや道の駅大型商業施設が出店することになり、オギノ増穂店が

移転する。民間企業より移転後の空き店舗を核として、既存の商店や活性館などの施設を一体的に活用したにぎわいのまちづくり計画について相談されたところである。民間企業と事業概



組織再編も検討課題

要の協議を進め、経営母体となるまちづくり会社に町も出資をし、企業と商店による協同組合を立ち上げ運営していくことを検討していく。

消防団の
適正運営は

問 各分団とも団員の確保が難しく、分団の適正運営が困難となっている。機能別団員制度も提案したところだが、分団の再編も考える必要があると思うが。

町長 団員確保が進まないため、来年度より消防団OBも活用する機能別団員制度を導入し、自主防災の人たちにも使える可搬式ポンプ車の配備や、各分団が連携し消防団活動が維持できるように、組織再編も検討していく。

問 鯉沢小中学校の プール建設は

答 26年の夏までには
完成させたい

小林 進 議員



問 鯉沢小中学校のプールの建設は、PTAや地域の人たちの念願だが、25年度予算に用地購入費と設計費が計上されているが、経緯を伺いたい。

教育委員長 現在使用している町民プールは、授業で使用するには場所が遠く行き帰りの安全面などから、学校の隣接地を探していた。学校東側の土地所有者からおおむねご理解がいただけたため予算に計上した。26年の夏の授業に間に合うよう事業を進める。

公共施設の耐震化は

問 小中学校の耐震化はほぼ完了しているが、その他の公共施設の耐震化についての考えは。

町長 合併以来、旧町で整備された公共施設は継承して利用いただいていたが、人口の増加が期待できない中、税収の落ち込みや新たな町民ニーズへの対応をいくためにも、既存施設の整理統合・廃止・譲渡・他用途への転用など、公共施設の再配置計画を策定し事業を進めていきたい。

中部区の将来構想は

問 中部横断自動車道の開通を見据え、鹿島・落居間交流ふれあいトンネルの整備はどのようになっているか。

町長 六郷インターから国道52号にアクセスする重要な道路と考えている。昨年からは市川三郷町とも連携を図り、要望していくことに

している。

問 将来を見据え、鹿島・箱原・鬼島のかさ上げ構想についての考えは。

町長 将来構想の中では、水害から守るにはかさ上げをすることになるが、地域の意向を確認していきたい。

富士橋の架け替えは

問 老朽化した富士橋の架け替え計画は。

町長 早期事業化に向け、引き続き県に積極的に働きかけていきたい。



老朽化した富士橋

問

病児保育と病後児保育を 鯉沢病院に併設を

答

町が要望しても 一部事務組合が判断する問題

秋山 貢 議員



問 鯉沢病院では、女性の働きやすい職場環境の整備を図る意味から、院内保育を計画している。一歩進めて、一般の方々も利用できる病児保育や、病後児保育を拡充する考えはあるか。

町長 新たな一部事務組合で、従業員が働きやすい環境のひとつとして院内保育も考えていかなければと思っている。今現在、院内保育はどの病院をみてもない。院内保育については設置に向けて検討している。

病児保育と病後児保育については、今後一部事務組

合の中で検討されていくと考えている。

問 前に保育所のお母さんたちと話す機会があった。子どもが急に発熱したり病気になる時に預ける所がない。見てくれるおじいちゃんやおばあちゃんはいない。病児保育や病後児保育を充実してほしいという意見が多かった。一部事務組合で決めていくということではなく、富士川町としては住民の要望があるので、できるだけ反映していきたいと伝えるべきではないか。



市の委託を受け病後児保育を実施している さくらんぼ保育園（南アルプス市）

町長 必要性は私も考えている。院内保育所であれば一部屋でできる。病後児保育は隔離しなければならぬので、もう一部屋多くなる。また保育士も増える。

病院の経営とからんでくる問題もあるので、富士川町から要望するとしても、するかしないかは一部事務組合で検討する問題である。

問 市川三郷町立病院の短期借入金で2億8千万円ある。老健施設の短期借入金で6千万円、合計3億4千万円になる。長期借入金は、市川三郷町立病院が2

億7千万円で、老健施設が7億2千万円になり、合計で約10億円になる。どのように処理するのか。

町長 短期借入金については、市川三郷町が処理して平成25年度末にはゼロとして考えている。長期借入金を引き継いだ場合には、市川三郷町が負担するということではなく、一部事務組合が引き継ぎ、返済をしていく。

問 財政シミュレーションと違った形で赤字が出た場合の補てんはどうするのか。

町長 例えば最終的にかかる経費、あるいは病院を閉鎖しなければならなくなつたときの負債の割合については、病院設置と同じ50%ずつ負担していくと考えている。規約改正がなければ将来にわたって残ると考える。

お詫びと訂正

議会たより第11号P13、秋山貢議員の「一般質問」の表中、地方独裁方式は地方独立方式の誤りでした。お詫びして訂正します。

環境教育が町ぐるみ活動に発展できないか

答 環境問題をみんなで取り組む町にしたい

永井寛子 議員



問 環境政策を進めるうえで、今後、環境教育を重視するというが、その意図するところは何か。

町長 例えば、ゴミの出し方一つをとっても、まだまだ環境への取り組みが必要。環境教育を充実することから進めていきたい。

問 環境教育の狙いは、学んだことが行動に結びつく人材を育成することだと思っている。学校で学んだことを家庭に帰って生活の中で生かすという事例もあるのではないか。

町民生活課長 家庭でのコ

ミの分別や節電・節水など、親が子どもから影響を受けるといふこともある。

問 環境教育が家庭へ、そして地域へと町ぐるみの取り組みになることを望んでいるが。

町長 環境学習をカリキュラム化する取り組みとともに、住民と事業者、環境保全団体など、環境問題をみんなで行き届く町にしていきたい。

男女共同参画社会づくりは

問 昨年9月議会において、議会は男女共同参画推進条例を否決した。理由は、条例の内容に問題があったのであり、条例そのものはぜひとも必要と考えるが、今後の予定は。

町民生活課長 条例は必要だと考えている。中身を精査しているところである。

問 中身を精査するのにそんなに長い期間が必要か。

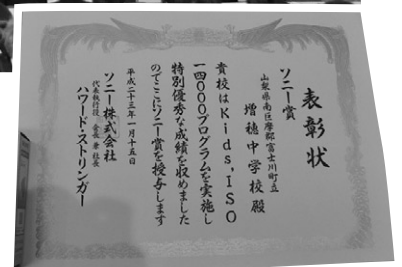
町民生活課長 前回条例を策定した準備委員会に説明をしたり、町でも精査した

りしている。

問 次回でまた同じことを繰り返すようなことがあつてはならないが、条文を町でチェックする機能はあるのか。

総務課長 役場の中に法令審査会が設置しており、ここで審査をしている。

問 学校教育の中では男女は平等だが、職場に入った途端に、男性優位に転じると感じるアンケート結果がある。役場内でも女性管理



増穂中学校生徒会が環境活動で全国表彰されました

職は2人だけだが、管理職登用の基準は何か。

町長 年齢や意欲など、総合的に判断するほか、本人の希望も聞きながら男女の区別に関係なく登用している。

問 仕事と家庭を両立する考えが広がっているが、役場の男性職員でこれまで育児休暇をとった人はいるか。

総務課長 現状ではないが、今後は男性も一緒に子育てできる環境整備を進めていきたい。

問

3人の医師引き上げで 医師確保できるのか

答

基本計画に差異が生ずれば抗議する

齋藤 欽也 議員



問 病院統合協議会が4回開催されたが、いまだ新病院の経営シミュレーションを含めた具体的な計画案が見えてこない。安定経営の大前提は医師の確保、この地域の患者のおおかたが利用するということである。診療科を含めた整理統合について議論されていないが、**町長** 財務指標として入院単価・病床利用率・給与比率などの目標値が設定され、6つのパターンによるシミュレーションが示された。4月以降、一部事務組合で今後詳細が決定される。統

合が進まないうちにどっちを統合する、廃止するとう話が出たら、この話は終わりになる。同じ物（診療科）を、未来永劫持ち続けるわけにはいかない。将来バランスを考えながらやっていけばよい。

問 2病院の診療体制・目標値を可能とするため、医師確保が必要である。市川三郷町立病院では医師が3人引き上げられ、4月1日から整形外科の診療日が週3日の半日診療になると聞



今使用している鰻沢プール

き大変驚いた。この状況で医師の確保ができるのか。**町長** 来年4月から計画に沿って医師が派遣されればよい。今は市川三郷町と医学部の問題である。この基本計画に大きな差異が生じれば、2町で医学部にも県にも抗議したり、お願いしたりしなければならぬ。

予算編成の 緊急度は

問 町民会館の耐震化の予算が何も盛られていない。



プール建設予定地

先に質問した議員の関連のなかで、「これまででは、さらなる合併の推進という公約もあつたから、教育関連施設に力を入れてきた。今後、順番は別として公共施設の再配備計画を策定して行う」との話があつたが、今回の予算に鰻沢の学校プール用地取得費7000万円が盛り込まれた。しかも、今年1月に要望書が出されたからだという。今日は震災から丸2年。町民会館はいつ潰れてもおかしくない。長年の懸案であり緊急度は非常に高い。学校プール・太陽光発電、みな必要な物であるが、当初予算には緊急度・必要度の視点が欠けているのでは。**町長** 施設配備計画もあり、コンセンサスが得られれば計画的に整備していく部分である。長い時間がかかる。時間がかかることは分かっている。なぜやってこなかったのか。**町長** やらないということではない。

問 地域支援職員制度の各区への周知は

答 まだ十分浸透していないが積極的な活用を

市川 淳子 議員



問 なぜ今、富士川町に地域支援職員制度をつくろうとしたのか。

総務課長 総合計画策定の段階で、町内全域で寄り合いワークショップを開催し、地域の課題を明確にして、その解決策を議論した。地域支援職員は、その課題解決に向けた情報提供をすることを目的に、町内16区と行政を結ぶパイプ役として各区に配置した。

問 この制度は、画期的な良い制度だと思う。しかし、この制度を有効に活用している区はまだ少ない。また、

配属されている職員もこの制度を理解し、積極的に実践に生かしているのは、ごく一部の職員にとどまっている。せっかく良い制度を作ったのだから、もっと中味を詰めていくべきだと思うが。

総務課長 その地域の課題について、職員を集めて研修を実施し、「飛び出せ、公務員」、「自分の仕事プラス1」などとして、地域へ出ていき活動を進めていくよう指導していきたいと考えている。

区に対しては、すでにこ



地域の会議に地域支援職員が参加(中部区)

理想の町民との協働とは

問 町長が政策として掲げるこの制度を活用し、従来よりも充実した活動を展開している地区や、今回の支援職員の配置を機に、新たな組織を立ち上げ活性化に向けた取り組みに着手した地区も出てきている。町としては、この制度を有効活用していただき、地区の活動がさらに活発になり、地域力が高まっていくよう、支援していきたいと考えている。

ている理想の「町民との協働」とはどのようなものか。

町長 まちづくりの基本は人と物であると考えます。地域にあるものをどうやって生かすか、地域の人たちにとってどうかかわりを持たせていくか。総合計画の6つの基本目標の一番目を「みんなで考え、一緒に築くまちづくり」とした。

まちづくりには、地域の皆さんとの協力関係は必須である。町では地域の活動を支援するため、25年度当初予算に、地域力創造交付金や地域コミュニティ施設整備費貸付基金などを計上した。地域だけでは解決できない難しい課題などには、地域住民と役場が一緒になって考え、汗を流しながらその役目を果たしていく。こうした取り組みが成熟していくことで、「協働のまちづくり」ができていくものと考えている。

問

再生可能エネルギー対策をどう進めるのか

答

公共施設に太陽光発電設備 適地に大型設備も考える

井上光三
議員



北杜市の太陽光発電設備

問 再生可能エネルギー対策は、総合計画や地球温暖化対策実行計画で利用促進を図っていくとしているが、今後、大型の太陽光発電設備を設置する考えはあるか。
町長 エネルギー問題は国民一人ひとりが真剣に向き合って考える必要がある。再生可能な自然エネルギーの導入は重要である。今回学校に太陽光発電設備の設置を予定しているが、今後

は学校や公共施設に順次設置していきたい。また、適地があれば大型の設備も設置していきたい。

問 太陽光発電普及のため設置費補助金の補助率を見直す考えはないか。

町長 本町の補助金は、他市町村と比較しても高額である。昨年「固定価格買取制度」が導入されたことにより、設置者には電力消費者が電気料の一部を負担することとなった。このため町の補助制度の打ち切りも考えたが、まだ普及が進んでいない状況もあり、補助率の見直しは行わず、補助制度を継続していきたい。なお、補助件数が増えた場合、補正措置などで普及を図っていきたい。

問 木質バイオマスへの補助制度導入など、利用促進はどのように行っていくか。
町長 補助制度は住民の要望が多ければ考えたい。町でも建設中の道の駅に薪ストーブの設置を考えており、木質バイオマスの利用促進

を図っていく。今後は、地球温暖化対策実行計画を推進する中で、住民に情報提供を行っていききたい。

観光振興と併せた 道路整備は

問 観光振興の要でもある県道高下鵜沢線の拡幅問題は進んでいるのか。

町長 これまで地元との意見交換会や、県によるアンケート調査などを実施してきた、今後も意見交換会などを実施する中で、拡幅可能な箇所から着手できればと考えている。

問 町道・土録大法師線の整備はこれまでの懸案事項だが、町の考えは。

町長 本線は周辺が荒廃農地となっており、一体的な整備が必要である。たとえば梅の公園などに整備し、大法師公園と併せた観光ルートにしてはどうかとの意見もあり、今後、地元と協議をする中で整備手法を考えていきたい。

問 高齢者肺炎球菌ワクチンの公費助成が必要と考えるが

答 肺炎球菌ワクチン接種に助成制度導入を検討

堀之内美彦 議員



問 日本人の死因第4位は肺炎であり、年間約10万人の方たちが亡くなっている。そこで、高齢者肺炎球菌ワクチンの必要性が見直されている。予防接種を考えても、保険適用外のため接種費用6～9千円の自己負担がネックとなっている。予防接種の推進により高齢者の健康を守るとともに、医療費の削減にもつながる、肺炎球菌ワクチンの公費助成が必要と考えるが、当局の考えは

町長 本町の、過去3年間の肺炎死者の年齢割合を見ると、92%が75歳以上の

高齢者だった。このような状況を踏まえ、疾病予防と健康増進の観点からも、成人の肺炎球菌ワクチン接種助成制度を導入する方向で検討を進めていく。

問 接種を受ける年齢は70歳が理想的と考える。少なくとも75歳まではと考えるが、町長の考えは。

町長 県内で助成している自治体もある。一回のみのところや、70歳から5歳刻みで行っているところもある。何回も接種すれば効き目が



高齢者に肺炎球菌ワクチン助成を

良くなるということではない。いま接種して抗体ができればいい。肺炎球菌も多くの種類があり、今後、精査をする中で、良い制度として助成できるようにしていく。

期日前投票の宣誓書は

問 期日前投票の際、宣誓書への書き込みが高齢者には負担となっている。事前に記入して、持参し投票が可能とする自治体もある。本町においてもこのような

方策を導入してはどうか。

総務課長 近隣の自治体ではホームページから様式をダウンロードして、事前に記入する方法をとっていることから、本町でも次回の選挙から実施していく。

骨髄ドナー継続的確保に向けて

問 造血幹細胞移植推進法第10条では、「国とともに地方公共団体も理解を深めるための必要な施策を講ずるもの」とすることとなっているが、本町の取り組みを伺う。

福祉保健課長 国においては、基本方針等に関わる審議が行われており、9月をめどに取りまとめを行う予定となっている。基本方針が策定されたら、町民や事業者の皆さまに骨髄提供の推進を図るため、町が取り組む施策や骨髄移植およびドナー登録の重要性について、広報やホームページを通して周知していく。

ふじかわ 昔ばなし

力もちのお話

二編

その一 (高下) 五人力の嫁



昔、高下村の狩宿集落に力の強いことで有名な嫁がいた。だれ言つとなく「五人力の嫁」と呼んでいたが、この嫁ははじめから大力があつたわけではなく、ふとしたことから病で夫を失つて以来、残された家族を養うために、朝は暗いうちから夜は星明かりで野良仕事に励み、農閑期には荒くれ男に交じつて山仕事に励んだために、力持ちになつたのだという。仙洞田集落には一俵まきと呼ばれていた田んぼがあつた。初一俵を種に下ろすほどに広いということ、ある秋、集落の人々がその田んぼで稲刈りに精出していたとき、ちよつと狩宿の「五人力の嫁」が通りかかった。

稲刈りの若い者がひとつからかってやれという軽い気持ちから「おい、ねえさん、お前さんが強いというが、どうだいこの田んぼ一枚の稲が背負えるじや背負つて見ろよ、背負えたらみんなやるがな」というと、その言葉の終わるか終らないうちに、嫁は「ありがとうさんで、それじゃもらつて帰りしす」というが早いか、そばからさつさと束ねシヨイコに荷じりつけると、「みなさんおかせぎなつてよ」と、仙洞田の人々がよもやと思つて驚いている顔を尻目に、山のような稲束を軽々と背負い上げていったという。

その二 (大柵) 市川与兵衛の大力



昔、大柵の村から集めた代官所への納め金の勘定が、

一朱違つたことがある。大柵は七十三軒あり、そのうち七十軒までは「お役所を相手のことだから仕方あるまい」といつてあきらめたが、残り三軒の人たちは不承知であつた。その中に市川与兵衛もいたが、与兵衛は我慢できず、市川代官所へ訴え出た。

代官所の正面入口には「手つき石」といつて、一般の庶民がその石に手をついて願うことなど申し上げる、重さ一〇〇貫もある大石がすえてあつた。ところが与兵衛は評判の大力者であつたから、話が込み入つてくると、その手つき石を力まかせに端の方へグツと引き寄せて役人に詰め寄つた。これには代官も恐れをなして奥へ逃げ込んだという。こうして与兵衛は間違つたことはたとえ一人になつても、どこまでもたすといつて、わずか一朱の違いで、七年間も代官所と出入りをして争い、とうとう代官に勘定の間違いを承認させたということである。

(増穂町誌より転載)

議会クイズ

- 問題1. 新年度予算は何億何千万円でしょうか？
- 問題2. 通学路カラー化の予定は何路線か？
- 問題3. 新しくつくられる課は何課か？

《景品》抽選で3名の方に図書券千円分を差し上げます。
《応募要領》必要事項を記入の上、ハガキにて応募ください。

・答え ・郵便番号 ・住所 ・氏名
・年齢 ・電話番号 ・議会だよりの感想

《宛て先》〒400-0592 富士川町天神中条1134
富士川町議会事務局 行

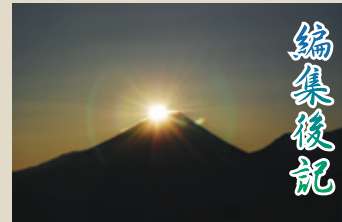
《締め切り》平成25年5月末日(当日消印有効)

《当選者の発表》商品の発送をもって当選と代えさせていただきます。

前回の答え

- (1) 72億3,655万円 (2) 26年4月 (3) 12月6日
- 厳正なる抽選の結果、3名の方に賞品を発送しました。

編集後記



鷹座巢の山に残る雪も消え、各地からの花だよりと共に我が富士川町も春を感じる好季節となりました。

編集委員6人は、「ありのままに」「わかりやすく」「住民と共に」を心がけ、日々努力・精進をしていきます。住民と議会を結ぶ架け橋として、限られた紙面を有効に使つて発信していきたいと思ひます。

(深澤勝雄)